

1 - 5 国内の主催企画とはどのようなもの？

国内の主催企画とその概要・担当者・連絡先の一覧です。より詳しい情報は世界天文年2009 ホームページに掲載しています。ご質問は問合せ専用メールアドレスへお願いします。国内企画にはこのほかに「公認企画」や「ウェブ企画」などがあります。

国内の主催企画

「アジアの星の神話・伝説」プロジェクト (2008 年から活動)

アジア地域の星まつわる神話や伝説を集めて、アジアの文化を発信する企画です。IYA2009 のアジア共同企画として取り組まれており、アジア各国でワーキンググループが組織され活動を展開しています。2008 年 6 月には国内ワークショップを、2009 年 5 月には国際ワークショップを国立天文台（三鷹）で開催。2010 年には成果をまとめた書籍の出版を予定しています。

担当：海部宣男（日本委員会委員長）

問合せ：asia@astronomy2009.jp

星空ブックフェア ～本をまくらに宇宙を見よう～ (2009 年 4 月から)

出版社あるいは著者から申請され日本委員会が公認した天文・宇宙の書籍が、書店の特設コーナーに並ぶ企画です。2008 年 12 月から全国 78 店舗で星空ブックフェアを開催（3 月まで）。ウェブ企画の「星空ブックフェアオンライン」とも連動し、絵本から専門書まで、天文・宇宙の本の魅力を発信します。公認書籍は 2008 年末時点で 200 を突破。書籍のリストは資料編をご覧ください。

担当企画委員：渡部潤一（企画委員長）、高田裕行（国立天文台）

問合せ：publish@astronomy2009.jp

「君もガリレオ」プロジェクト (2008 年から実施)

市販のレンズ口径 4 センチメートルの組み立て式の小型望遠鏡 2 種類を、ガリレオの天体観測の追体験に適した「君もガリレオ」望遠鏡として紹介し、年間を通して望遠鏡による天体観察をサポートする学習プログラムです。参加グループを対象に 20 個以上まとめ買いの場合の割引価格も設定されています。世界の主要企画「望遠鏡をみんなの手に」の一部として海外にも展開しています。

担当企画委員：縣秀彦（国立天文台）

問合せ：galileoscope@astronomy2009.jp

世界天文年 2009 キックオフシンポジウム (2008 年 11 月 23 日に終了)

日本委員会主催のイベントとして、世界天文年の内容を紹介し、世界天文年への積極的な参加を一般に直接呼びかける初めての機会となったシンポジウムです。4 人のパネリストがそれぞれの立場から世界天文年への期待を語るパネルディスカッションも行われました。会場は東京国際交流館の国際交流会議場で、サイエンスアゴラの中で開催し、160 名が参加しました。

担当企画委員：安藤享平（天文教育普及研究会）

天文同好会サミット 2008 (2008 年 12 月 6～7 日に終了)

全国各地から天文同好会約 60 団体、150 名以上が国立天文台三鷹に集結した天文アマチュア史に残るイベントです。シンポジウムやポスター発表で天体観望会のノウハウや天文同好会の現状に関する意見交換が行われ、懇談会や国立天文台内の見学会などもありました。天文アマチュアの間で世界天文年を盛り上げようという機運が高まり、今後さらに情報交換を進めて将来につなげようと、参加者間のメーリングリストが立ち上がっています。

担当：渡部潤一（企画委員長）、佐藤幹哉（国立天文台）

めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう！（通年）

日々の夜空に輝く天体をはじめ、日食やプラネタリアムを見た人も含めて星を見た人数としてカウントする試みです。特設ウェブサイトや携帯端末向けサイトで、個人、グループ、施設等から星を見た報告を随時送っていただき、集計結果を公開。2009 年の 1 年間で、のべ 1000 万人達成をめざそうというキャンペーンです。具体的な報告方法は 1-7 をご覧ください。

担当企画委員：井上毅（日本公開天文台協会）、石坂千春（日本プラネタリアム協議会）

問合せ：10-million@astronomy2009.jp

全国どこでも世界天文年！プラネタリアムへ行こう（通年）

日本にはおよそ 300 館のプラネタリアムがあり、年間 600 万人の観覧者が訪れます。星のこと、ガリレオのこと、望遠鏡のことなど、多くのプラネタリアムで世界天文年に関係したプラネタリアム投影や展示企画、イベントなどを行うのに伴い、共同でキャンペーンを行う企画です。

担当企画委員：石坂千春（日本プラネタリアム協議会）

問合せ：planetarium@astronomy2009.jp

(次ページへつづく)

全国一斉オープニングイベント（2009年1月4日に終了）

全国各地で世界天文年のスタートを同じ日に一斉に盛り上げました。事前に天文関連施設など関係各方面に開催を呼びかけたところ、50件以上のイベントが申請され、各地で世界天文年のオープニングが宣言されました。メイン会場の県立ぐんま天文台ではセレモニーが行われました。

担当企画委員：井上 毅（日本公開天文台協会）

世界天文年 2009 参加・実施マニュアル（2009年2月より配布）

この冊子とウェブコンテンツを制作・配布する企画です。

担当企画委員：安藤享平（天文教育普及研究会）、大川拓也（日本委員会事務局）

問合せ：manual@astronomy2009.jp

ガリレオの望遠鏡精密復元プロジェクト（2009年3月発売予定）

科学館・博物館での展示や、ガリレオの追体験の機会提供をめざして、ガリレオが天体観測に用いた望遠鏡のうち2本を外見の細部にまでこだわり精密に復元しました。イタリアのフィレンツェに存在する実物にせまる望遠鏡30組を製作し3月に発売します。詳細はPART 3を参照ください。

担当企画委員：井上 毅（日本公開天文台協会）

問合せ：telescope@astronomy2009.jp

美しい夜空への想い

光害（ひかりがい）に関するシンポジウムの開催や、環境省が進める全国星空継続観察の成果を広く伝えて行くことを計画しています。同じ星座（オリオン座）を見上げて星の見え方の報告を集める世界的なキャンペーン GLOBE at Night への参加も呼びかけます。

担当企画委員：内田重美（国際ダークスカイ協会／星空を守る会）

問合せ：darksky@astronomy2009.jp

巡回企画展「ガリレオの天体観測から400年・宇宙の謎を解き明かす（仮称）」

望遠鏡の発明と発達、天文学の発展の歴史などを紹介。展示にあわせて講演会も計画しています。

5/30～7/20 国立科学博物館 7/25～8/30 仙台市天文台 9/5～10/4 新潟県立自然科学館

10/17～11/29 名古屋市科学館 12/5～2010年1/31 大阪市立科学館 で開催。

担当企画委員：洞口俊博（国立科学博物館）

問合せ：exhibition@astronomy2009.jp

7.22 皆既日食中継プロジェクト（2009年7月22日）

2009年皆既日食中継協議会に参加する団体が各地で観測した皆既日食映像を共有し、世界に発信します。1～8でも紹介しています。

担当企画委員：尾久土正己（2009年皆既日食中継協議会）

問合せ：722eclipse@astronomy2009.jp

日食グラスで月にかくれる太陽を見よう

日食を安全に観察することができる日食グラスの制作とそのサンプル配布を行い、日食観察の方法を普及する企画です。1～8とPART4にも関連情報を掲載していますのでご覧ください。

担当企画委員：高橋 淳（天文教育普及研究会）

問合せ：solarfilter@astronomy2009.jp

七夕に星を見よう！（2009年8月下旬）

8月22～29日に東アジア各地でライトダウンを行い、星空を楽しむイベントです。日本では伝統的七夕にあわせて沖縄県石垣市で開催されるイベントをメイン会場とする予定です。

担当：海部宣男（日本委員会委員長）

世界天文年エッセイ賞 ～星空にペンをかざして～

星や宇宙と出会うことで得られたひとりひとりの感動や思いを綴ったエッセイを、一般から募集する企画です。2009年末に各賞を発表し受賞作品を公開します。

担当企画委員：高田裕行（国立天文台）

問合せ：essay@astronomy2009.jp

星と風景を詠む

俳句・短歌・詩の韻文を募集し、コンテストを行います。

問合せ：haiku@astronomy2009.jp

世界天文年グランドフィナーレ式典（仮称）（2009年12月上旬）

兵庫県で開催されます。天文教育シンポジウム2009も同時開催する予定です。

担当企画委員：安藤享平（天文教育普及研究会）

問合せ：symp09@astronomy2009.jp
